

## 令和2年度 第1回「生徒による授業アンケート」(2 学年)の集計結果等について (報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

については、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

[問合せ先 副校長 (046)241-8002]

## 1 アンケートの実施日

令和2年8月4日(火)

## 2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	現代文Bは、「授業のあり方について」の各項目について80%の生徒が高評価の回答をしている。また、「学習の状況」についても、「予習復習」の項目が50%を切っているものの、他の項目は80%で肯定的回答となっている。古典A・古典Bにおいても、「授業のあり方」や「学習の状況」について70%以上が肯定的な回答をしているが、「予習復習」の項目のみ低い評価となっており、個々の家庭学習において課題があると思われる。
	授業改善	生徒の満足度の高い授業に向け、今後も理解しやすく学びが生きる授業を心がけることを徹底したい。今年度の授業が、8月までの間は非常に回数が少なかったにもかかわらず、積極的な回答が多く得られたことは大きいと考える。一方で、各科目の予習復習が十分に行われていないことは重要視すべきことであり、前年度からの引き続きの課題が、なかなか結果を得られない状況となっている。更なる工夫をしたい。
地歴・公民	集計分析	新型コロナウイルスの影響で、自宅で課題に取り組むことが多かったこと、学校への登校・授業再開後はあわただしい授業となったためか、評価項目については、否定的回答が30%ほどとなった。日本史Bでは、多くの項目で肯定的回答が80%を超えた。しかし、「予習・復習をしている」という項目では否定的回答が30%と多かったため、課題を出すなど家庭学習を行うような工夫を取り入れようと思う。
	授業改善	2学期は、授業の振り返りや、生徒自身の発言・発表の機会を授業に取り入れて、授業理解が十分進むよう取り組みたい。
数学	集計分析	多くの項目で肯定的回答の割合が昨年に比べて若干増えていることは喜ばしいことである。低い評価であったのは「予習・復習」の項目で、40%程度の生徒が否定的回答をしている点が特に気になる部分である。
	授業改善	生徒が意欲的に授業に取り組むことができるよう、興味・関心を深められる授業を行う。生徒の理解度に合った授業展開や発問の仕方を一層工夫すること等により、生徒が毎時間、充実感・達成感を味わえるよう授業改善を図りたい。また、生徒の授業に対する意欲は十分に感じられるので、課題の頻度を上げること等により、生徒自身が自学自習する習慣を身につけさせ、授業にも積極的に参加できるようにしていきたい。
理科	集計分析	化学基礎(文系・スポ科)では、「授業のあり方」については比較的多くの生徒が肯定的な回答をしている。しかし、「学習の状況」については「予習・復習」に関して約半数が否定的な回答となっている。物理基礎研究では、「授業のあり方」については、概ね肯定的回答が得られた。「学習の状況」については、「予習・復習をしている」の項目で否定的回答が約30%であった。化学基礎研究では、「予習・復習」を除くと、多くの項目で肯定的回答が約70%となっている。生物基礎研究では、課題に意欲的に取り組んでいる。しかし、「授業の取り組みやすさ」は否定的な回答も多く、他者の考えを知り自分の考えを深めることは不十分であったことがうかがえる。
	授業改善	化学基礎(文系・スポ科)では、教科書の内容を動画にしてclassroomで配信したり、実験を取り入れて、自宅学習などのきっかけにしたい。さらに、「予習・復習」を促すような小テストや課題を度々設定していきたい。 物理基礎研究では、身近な現象の紹介や演示などを行い、生徒の興味・関心を引きつけられるよう教材の工夫を行いたい。また、演習などを通じて、問題が解けたという達成感を感じてもらい、生徒の学習への意欲を伸ばしていきたい。学習習慣へとつなげていけるよう課題の工夫を行いたい。 化学基礎研究では、「対話的な学び」につながるように、質疑応答を取り入れていきたい。 生物基礎研究では、調べ学習を主とした授業を引き続き行っていくが、質疑応答を必ず入れることで他者の意見を参考にして自分の知識や考えを深めていけるようにしたい。

令和2年度 第1回「生徒による授業アンケート」(2学年)の集計結果等について(報告)

保健体育	集計分析	<p>体育においては、ほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答であり、概ね良い結果といえるが、武道においては、「興味・関心のもてる授業」、「きめ細かい指導」の項目で80%を下回っていたことから、授業改善の必要性を感じた。また、「話し合いや発表をする機会」、「わかる努力」、「予習・復習」の項目において80%を下回っていたのは、実技科目であるためと考えられる。</p> <p>保健においても、ほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答であり、概ね良い結果といえるが、「わかる努力」、「予習・復習」など評価の少し低い項目もみられるので、授業改善の必要性を感じた。</p> <p>スポーツ概論・スポーツ科学研究においては、学習内容がやや難しいことは否めず、「理解しにくい」、「取り組みにくい」と感じる生徒が20%近く存在することから、やはり授業改善が必要という結果となった。</p>
	授業改善	<p>体育においては、武道に苦手意識を持っている生徒にもしっかりと目を向けて、興味関心を引き出す工夫を取り入れた授業を行っていく。これは、昨年度のアンケートと同様の反省・改善事項となってしまう。保健やスポーツ概論・スポーツ科学研究においては、講義型の授業から、話し合いや発表等、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業形態を導入し、より生徒自らが考える授業としていく。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語Ⅱ、英語総合において「授業のありかたについて」、「学習の状況について」の各項目で約80%の生徒が肯定的回答をしている。その中で予習・復習をしているという項目では約30%の生徒が否定的回答をしている。英語表現Ⅰ(スポ科)は全般に肯定的な回答の方が勝っているが、「予習・復習をしている」というところだけは否定的な回答が目立つ。</p>
	授業改善	<p>コミュニケーション英語Ⅱは単語の予習をさせたり、副教材のワークブックを活用しながら生徒の予習・復習につながる時間を確保することで、授業が理解でき、達成感を持てるよう工夫をしていく。英語総合では授業だけで完結するのではなく、その日習った文法事項を復習できるような工夫をして定着をより一層図り、生徒の理解度、達成感をさらに高めていく必要があると感じる。英語表現Ⅰ(スポ科)では1学期はコロナの関係で週末課題を定期的に出せなかったため、2学期は週末課題を出し、自発的に学ぶ時間を確保したい。</p>
家庭	集計分析	<p>授業のあり方、学習状況ともに約80%の生徒が肯定的回答をしている。なかでも「ほぼ当てはまる」と回答した生徒が約50%であった。否定的回答をした生徒への対策を考えつつ、さらに、最も割合の大きい肯定的な回答をした生徒が、より授業に意欲をもって取り組めるような改善を行っていききたい。</p>
	授業改善	<p>授業内容を理解し、わかったという達成感を持たせるため、導入の時間を大切にしたい。本時ほどのような内容を扱い、何を理解してほしいのか目的を明確にし、生徒が興味を持って取り組める授業を展開していきたい。また、授業内容は詰め込みすぎず、生徒が主体的にしっかりと考えられる教材を準備したい。理解度を確認しながら、多くの生徒が満足できるような授業改善を行っていききたい。</p>
芸術	集計分析	<p>授業のあり方については約80%の肯定的回答を得ることができている。ただ、「学習の状況」については特に「予習・復習をしている」の項目では否定的回答が約40%と多い。実技科目の特性上、予習・復習等の取り組み方について生徒に具体的に伝えていくべきと捉えている。</p>
	授業改善	<p>取り組みやすい内容を選択しながら、生徒の理解度に合わせるために様々な指導法を常に研究しつつ、特に同じ内容でも色々なアプローチの仕方をさらに改善していきたいと考えている。また、実技科目として予習・復習のしやすい内容についても明確に指示していけるよう改善していきたい。</p>